



## H コマンド

---

この章では、コマンド名が H で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

# hw-module logging onboard

エラー タイプ別 Onboard Failure Logging (OBFL; オンボード障害ロギング) をイネーブルにするには、**hw-module logging onboard** コマンドを使用します。OBFL をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します (OBFL をディセーブルにすることは推奨されていません)。

**hw-module logging onboard** [**counter-stats**] [**environmental-history**] [**error-stats**]  
[**interrupt-stats**] [**module num**] [**obfl-log**]

**no hw-module logging onboard** [**environmental-history**] [**error-stats**] [**interrupt-stats**] [**module num**] [**obfl-log**]

## 構文の説明

<b>counter-stats</b>	(任意) OBFL カウンタ統計情報を指定します。
<b>environmental-history</b>	(任意) OBFL 環境履歴を指定します。
<b>error-stats</b>	(任意) OBFL エラー統計情報を指定します。
<b>interrupt-stats</b>	(任意) OBFL 割り込み統計情報を指定します。
<b>module num</b>	(任意) 特定のモジュールの OBFL 情報を指定します。
<b>obfl-log</b>	(任意) OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) を指定します。

## デフォルト

イネーブル (推奨される状態)。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。
4.0(2)	<b>counter-stats</b> キーワードが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**hw-module logging onboard** コマンドを使用すると、不揮発性メモリに保存されているファイルにイベントが記録されます。これらのデータは、シスコ製のルータやスイッチに搭載されているハードウェアモジュールの障害を診断するときに使用できます。オンボードハードウェアが起動すると、監視されている各領域で最初のレコードが作成され、後続のレコードの基準値となります。このコマンドでは、継続的にレコードを収集し古いレコードをアーカイブする循環アップデート方式によって、ハードウェアに関する正確なデータを確実に提供します。データは、連続するファイル内の測定値やサンプルのスナップショットを表示する連続情報と、収集中のデータに関する詳細を提供するサマリー情報の、2つの形式のうちの1つで記録されます。現行データおよび履歴データのレポートを表示するには、**show logging onboard** コマンドを使用します。



(注) OBFL をディセーブルにしないことを推奨します。

このコンフィギュレーション コマンドは、デバイスに装着されているモジュールに適用可能です。モジュールを取り外して別のデバイスに装着すると、このコマンドのコンフィギュレーションは新しいデバイス上でそのモジュールに適用されます。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

**例**

次に、重大度 7（デバッグ用）の OBFL メッセージログに記録するように設定する例を示します。

```
Router> enable
switch# configure terminal
switch(config)# hw-module switch 2 module 1 logging onboard message level 7
switch(config)# end
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>attach</b>	特定のラインカード上でコマンドを実行するために、そのカードに接続します。
<b>clear logging onboard</b>	オンボード障害ログをクリアします。
<b>show logging onboard</b>	オンボード失敗ログを表示します。

# header-type

ERSPAN の送信元のバージョンを設定するには、**header-type** コマンドを使用します。この機能をディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**header-type version**

**no header-type version**

## 構文の説明

*version* (任意) ERSPAN 送信元バージョン 3 を指定します。

## デフォルト

イネーブル (推奨される状態)。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
6.1(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ERSPAN 送信元セッションを Type II から Type III に変更する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 3 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# header-type 3
switch(config-erspan-src)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show logging onboard</b>	オンボード失敗ログを表示します。